

八丈島DX推進人材育成プログラム 報告書

令和5年3月
東京都総務局行政部

目次

1. 目的

2. 現状

(1) DX人材について

(2) 八丈島について

3. 今年度事業の実施概要・分析

(1) 講座・イベントの実施概要

(2) 参加状況及び分析

4. 想定される自走化モデル

1 目的

目的

地理的制約のある島しょ地域においては、人口減少や高齢化など様々な課題に直面しており、諸課題を克服していくためには、デジタル技術を活用し、効果的に施策展開を図っていくことが重要である。

このため東京都は、デジタル技術を活用した島しょ地域の社会課題解決プロジェクトを八丈島をモデルに展開し、有効な取組については他島に順次展開することで持続可能な島しょ地域の構築を推進する。

令和4年度は、八丈島、ならびに島しょ地域におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）推進を実現させることを目的に、DX推進の機運醸成とDX推進人材（デジタル技術を活用した新たなサービスやビジネスモデル創出、組織・プロセス・風土の変革を主導できる人材）の育成が自主的に継続する（自走化する）ことを目指す事業を実施し、今後のデジタル技術を活用した取組の担い手育成の一助とする。

2 現状

- (1) DX人材について
- (2) 八丈島について

2 (1) DX人材について - DXとは・DX推進人材とは

2004年にスウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が提唱したDXであるが、日本では、14年後の2018年に、経済産業省がDXの必要性に言及し、現在は、諸外国と比べて取り組みが遅れた分を取り戻している状況にある。DX推進人材とは、「デジタル技術を活用し、新たな価値を生み出し、企業の競争力向上を図ることができるスキル」を持ち、それを所属組織・地域・コミュニティで率先して実践し、教えることができる人材を指す。

DX Digital Transformation

人々の生活のあらゆる側面に影響を与え、**進化し続けるテクノロジー**であり、
その結果、**人々の生活をより良い方向に変化させること**

The digital transformation can be understood as the changes that the digital technology causes or influences in all aspects of human life.

DX推進人材に最低限必要なスキルとして、①②③の順にスキルの習得が必要である。

- ① **子供、高齢者、その他市民** の役割が身に付け着けるべき **ITリテラシー**
具体例：スマホやタブレット、PCの使い方等
- ② **ビジネスパーソン** の役割が身に付けるべき **ITリテラシー**
具体例：コンピューターの仕組みや、プログラムの処理手順、ITの導入プロセス、順守すべき法令等
- ③ **ビジネスパーソン** のうち、DX推進人材の役割が身に付けるべき **ITリテラシー**
具体例：ITリテラシーの構成要素である「コンピューターリテラシー」、「インターネットリテラシー」、「情報リテラシー」の3分野をもれなく習得し、クラウドやAIなどの**最新技術を理解し、データを活用し、社会課題やビジネスの問題の本質的な解決を導くことができるスキル**

出典：2018年 9月 「DXレポート～ITシステム『2025年の崖』の克服とDXの本格的な展開～」

2018年12月「デジタル・トランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX推進ガイドライン）」

IT人材の定義（中小企業庁の定義）「ITの活用や情報システムの導入を企画、推進、運用する人材」

政府が考えるDX人材の定義（経済産業省「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（2018年12月）」を要約）

「デジタル技術やデータ活用についての知見を有し、業務内容にも精通したDXの実行を担っていく人材」

図1

デジタル社会における人材像

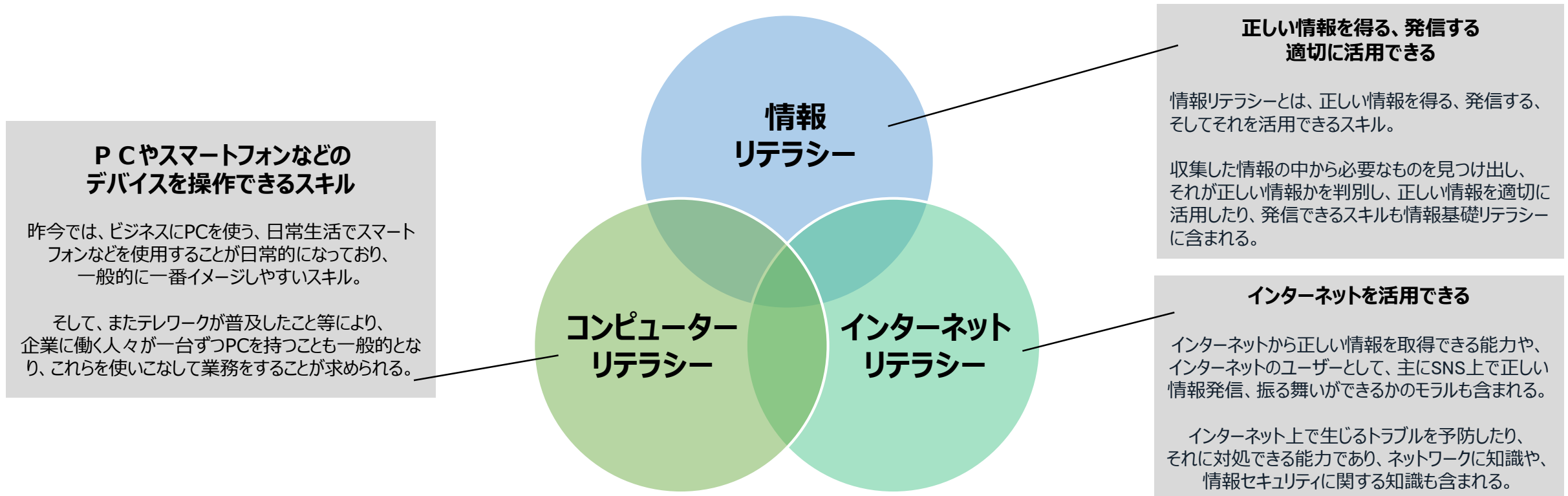
- デジタル社会においては、**全ての国民が、役割に応じた相応のデジタル知識・能力を習得する必要がある。**
- 若年層は、小・中・高等学校の情報教育を通じて一定レベルの知識を習得する。**現役のビジネスパーソンの学び直し（＝リスキリング）が重要。**



出典：経済産業省 デジタル時代の人材政策に関する検討会 実践的な学びの場 WG（第2回）資料
(https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/jissenteki_manabi_wg/002.html)

2 (1) DX人材について - ITリテラシーとは

ITリテラシーとは、通信・ネットワーク・セキュリティなどITに関連するものを理解する能力や適切に活用する能力。PCやスマートフォンなどのデバイス进行操作できる「**コンピューターリテラシー**」、インターネットを活用できる「**インターネットリテラシー**」、正しい情報を得る、発信する、適切に活用できる「**情報リテラシー**」の3つから構成される。



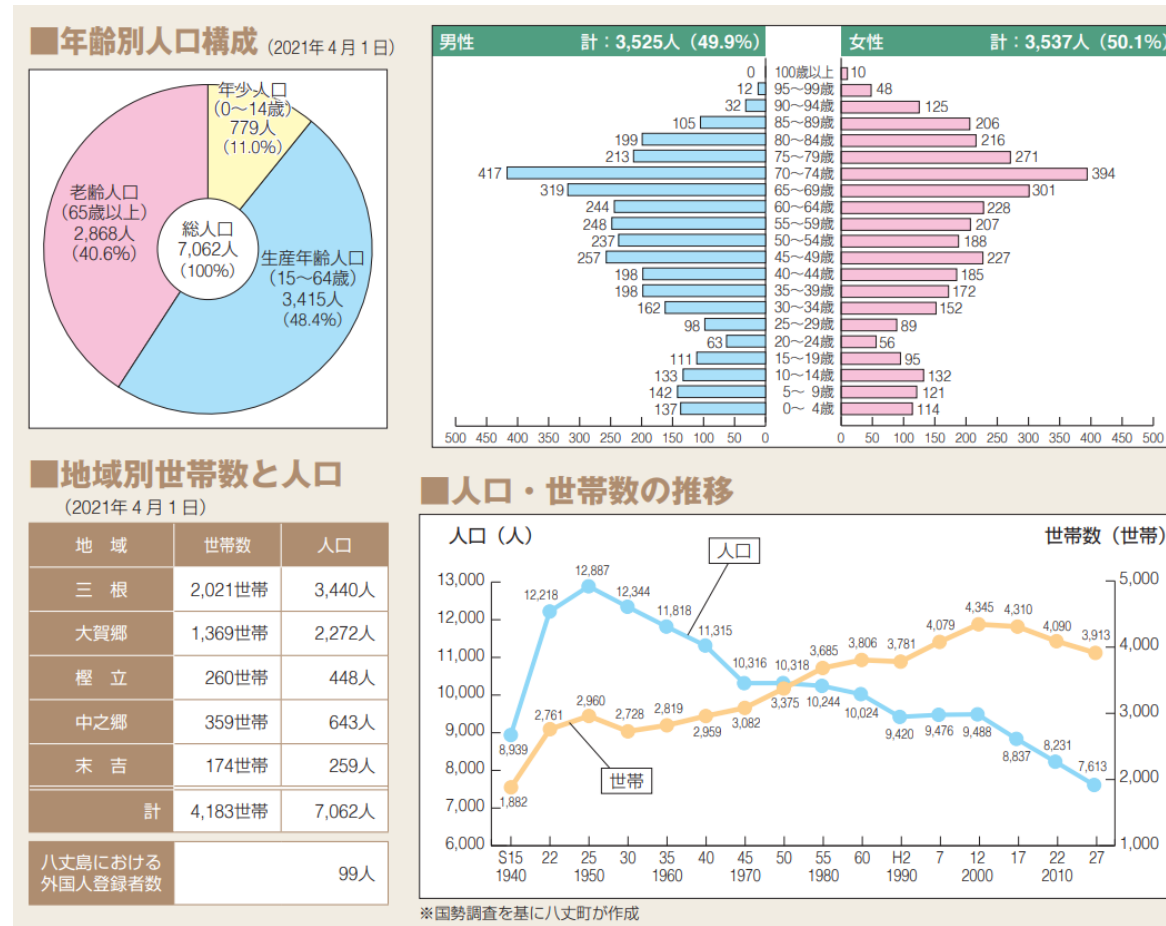
一般的にイメージしやすい「コンピューターリテラシー」、「インターネットリテラシー」があったとしても、「情報リテラシー」が不十分では、インターネットで得られた情報に振り回されてしまい、正しく活用するに至らないため、「情報リテラシー」を身に付けることは非常に重要である。

2 (1) DX人材について – 国内動向

- 政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」の基本方針において、2026年までにエンジニアやデータサイエンティストなどDXの推進を担う**デジタル人材を「230万人」**育成すると定めている一方で、経済産業省によるレポートで2025年には**IT人材が約43万人不足**と言われており、社会全体でデジタル人材の育成を加速させる必要がある。（生産年齢人口の減少、生産性向上、リスクリングの必要性）
- 世界に目を向けると、**日本のデジタル化は遅れ**が生じており、デジタル化をけん引する**DX推進人材の育成が急務**である。日本の国際競争力は、この30年で1位から31位に落ちている。その要因の一つとして挙げられるのが、「デジタル競争力」、「労働生産性」である。
- 世界の教育機関、企業から注目されている世界経済フォーラムの「ビジネスパーソンに必要なスキル」において、思考力や創造力、コミュニケーションスキルの他、**新たにテクノロジーの利用や設計など、テクノロジー関連スキルがランクイン**。2025年までにすべてのビジネスパーソンが必要とされるスキルとされている。
- 日本においては、企業が**人材投資にける割合が低く**、また、**個人でも社外学習・自己啓発を行う人が圧倒的に少ない**という結果が出ている。
- 2020年の新型コロナウイルス感染症防止対策として、**テレワークを導入する企業が大幅に増加**。移住検討者が移住を検討する理由の一つに「テレワークができる仕事」であることが挙げられている。**今後は、場所にとらわれない働き方がさらに増加**すると考えられる。

2 (2) 八丈島について – 生産年齢人口の減少と高齢化

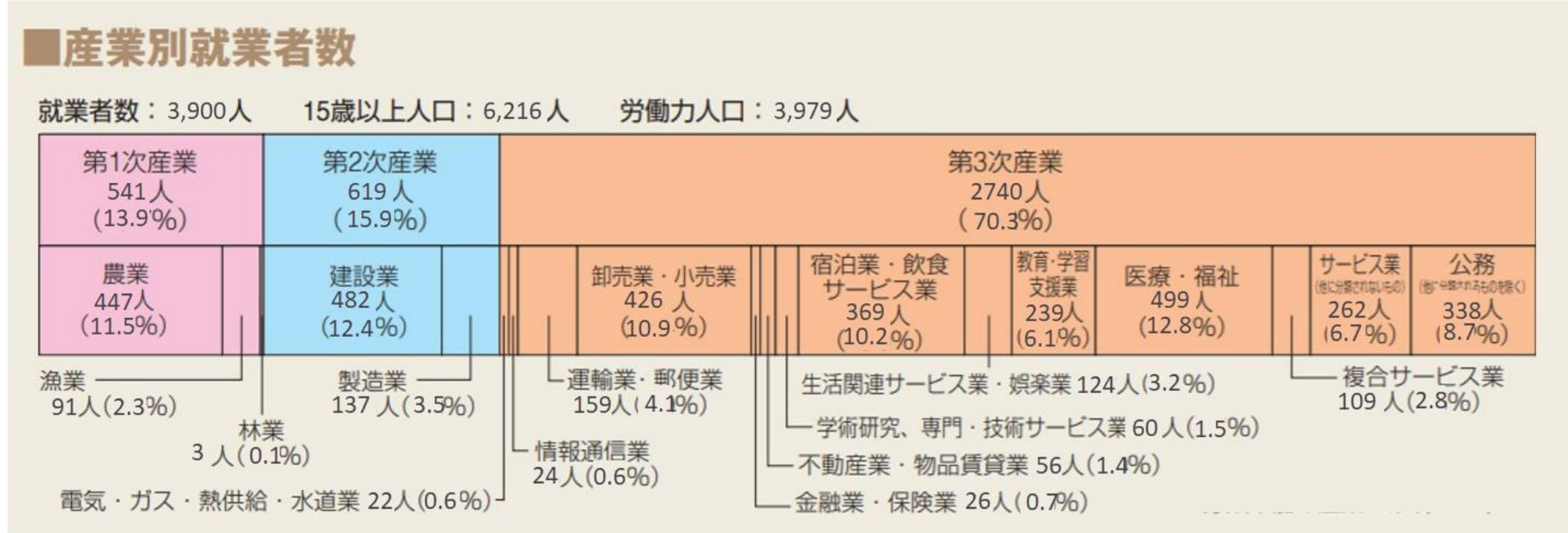
八丈町は長期的に人口が減少傾向にあるのに加え、生産年齢人口割合は約5割、高齢化率は約4割となっている。今後も人口減少・高齢化の傾向が大きく改善しないと仮定すると、生産性の向上等が必要と考えられる。



2 (2) 八丈島について - 産業別就業者数

八丈町の産業別就業者数は、第1次産業が13.9%、第2次産業が15.9%、第3次産業が70.3%となっている。第1次産業は近年就業者数が減少傾向にあるが、全体に占める割合としては、全国（3.2%）や東京都全体（0.4%）の産業構造と比較すると高い傾向にある。

また、八丈島の産業においては、医療・福祉の就業者数が12.8%と最も多く、続いて建設業、農業、卸・小売業、宿泊業・飲食サービス業と続いている。



2 (2) 八丈島について – DXの必要性

- 島しょ地域は、島民の高齢化や人口減少、地理的条件からくる医療や教育の面での制約などの社会課題を抱えているが、近隣自治体間での連携も地理的に困難であり、**諸課題を解決していくにはデジタル技術の活用は不可欠である。**
- 八丈島においても、人口及び生産年齢人口は既に減少が続いており、今後も長期的な減少が予想されることから、活力ある島であり続けるには、DX推進を図り、**生産力を維持・向上させ、テレワークなどの地理的制約にとらわれない働き方や、SNSやECなどを活用した魅力発信**をこれまで以上に図っていく必要がある。
- 一方で、DX推進に対する取組意義やメリットの理解、DXを推進する文化や風土の醸成といったことが中小企業特有の課題として挙げられている。八丈島は**事業者のほとんどが中小・小規模企業**であり、加えて産業構造も他地域と比較し1次産業従事者が多いなど独自の就業環境にある。さらに**島の文化として対面でのコミュニケーションが中心**であることから、**DXの取組意義やメリットを実感しにくい。**
- こうしたことから、本事業をきっかけに、島のDXを推進する環境づくりに取り組む。

3 今年度事業の実施概要

- (1) 講座・イベントの実施概要
- (2) 参加状況及び分析

3 (1) 講座・イベント・ITヘルプデスクの実施概要

今年度の講座・イベント・ITヘルプデスクの実施内容と結果は以下の通り。講座は、主に**事業者の活動に必要なスキルを中心に設計**した。講座の受講を通して、現状課題をITで解決し、便利さと可能性を感じた上で、習慣化してもらうことを狙った。また、イベントでは、島外ゲストを招くことで島民の関心を集め、島内外の事業検討者向けにアクセラレーターツアーを行った。ITヘルプデスクは、島民のデジタルに関する悩みの個別相談窓口として実施した。

【実施内容】

	講座・イベント名	開催回数
講座	①本当に役立つIT/DXを知るワークショップ	2回
	②課題解決のためのアイデアソン・ハッカソン	2回
	③業務プロセスの整理と非効率なアナログ作業からの脱却	2回
	④LINE を活用した接客プロセスの効率化	2回
	⑤デジタルマーケティング 効果的なSNSプロモーション (全2日)	2回
	⑥自社通販サイトを構築・流通チャネルを増やす (全2日)	1回
	⑦農作物 直販サイトを構築・流通チャネルを増やす	1回
	⑧いつでもどこでもリモートで働けるスキル (全3日)	1回
	総集編講座	1回
ITヘルプデスク	スマホ・パソコン・アプリの現地相談会	8回
イベント①②③	島民向けイベント	3回
イベント④	アクセラレーターツアー	1回

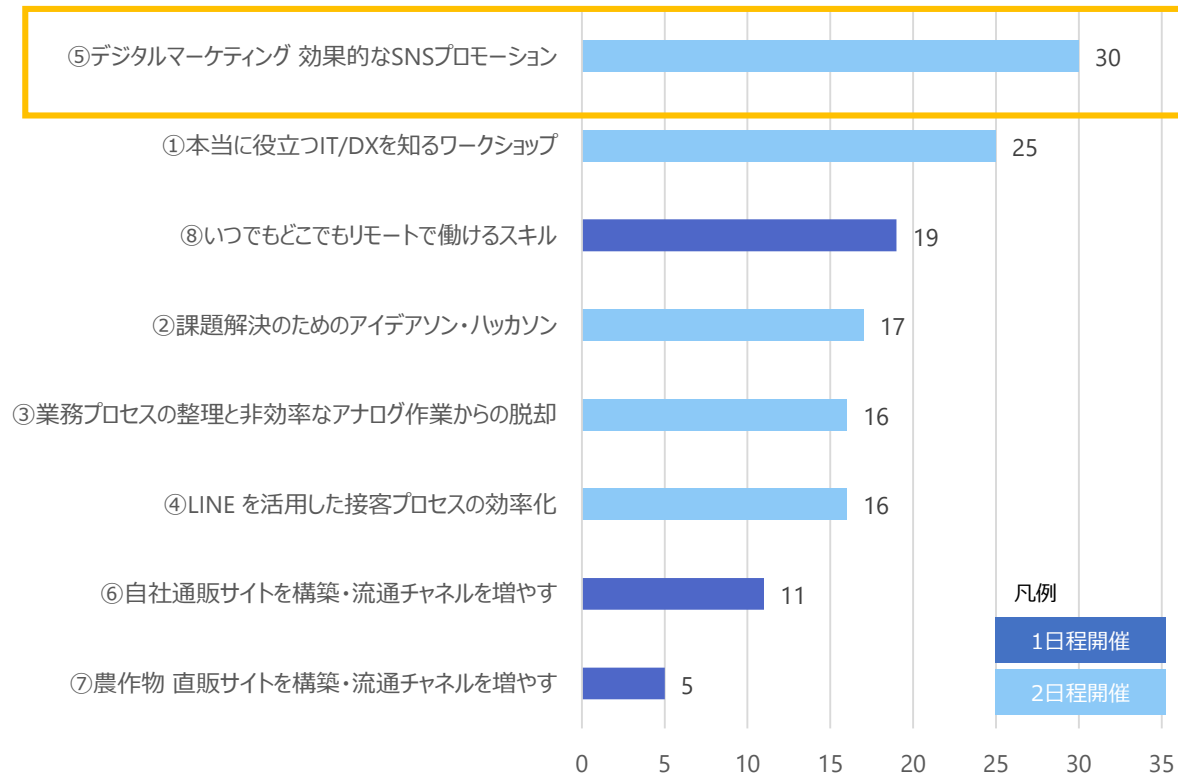
【実施結果】

講座	申込者数	148人
	参加者数 (延べ)	103人
	参加者数 (同一参加者除く)	42人
	平均参加講座数	2.6講座
	最大参加講座数	10講座
	参加者最少年齢	15才
	参加者最長年齢	80才
	ITヘルプデスク	申込者数
イベント①	申込者数/参加者数	31/20人
イベント②	申込者数/参加者数	42/36人
イベント③	申込者数/参加者数	11/9人
アクセラレーターツアー	エントリー/事業計画書提出	45/21人

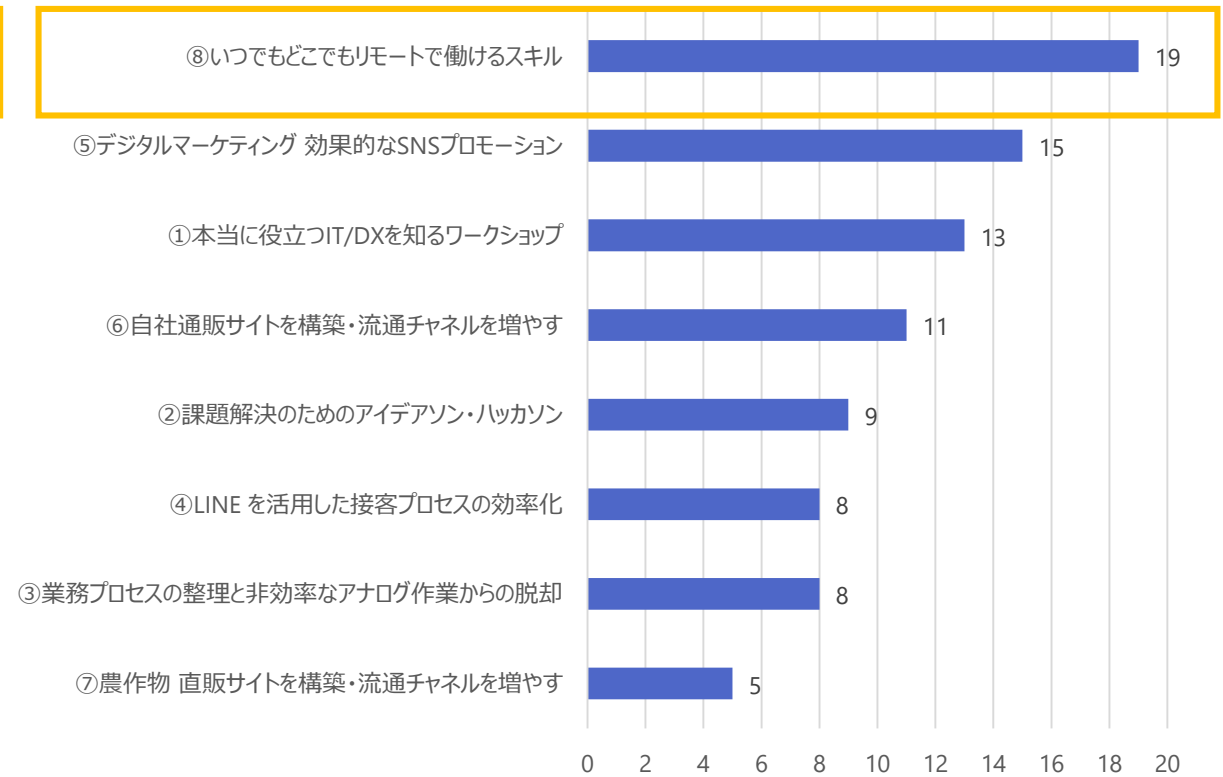
3 (2) 参加状況及び分析 – 講座

総申込者数を講座別に見てみると、2日程開催のデジタルマーケティング・SNSプロモーションが最も多く、事業者を中心に身近なSNSで集客を図りたいというニーズが多かった。また、講座1回あたりの平均申込者数においては、1日程開催の「リモートで働けるスキル」が最も多く、リモートワークの可能性に対する関心が高いことがわかる。

総申込者数



講座1回あたりの平均申込者数

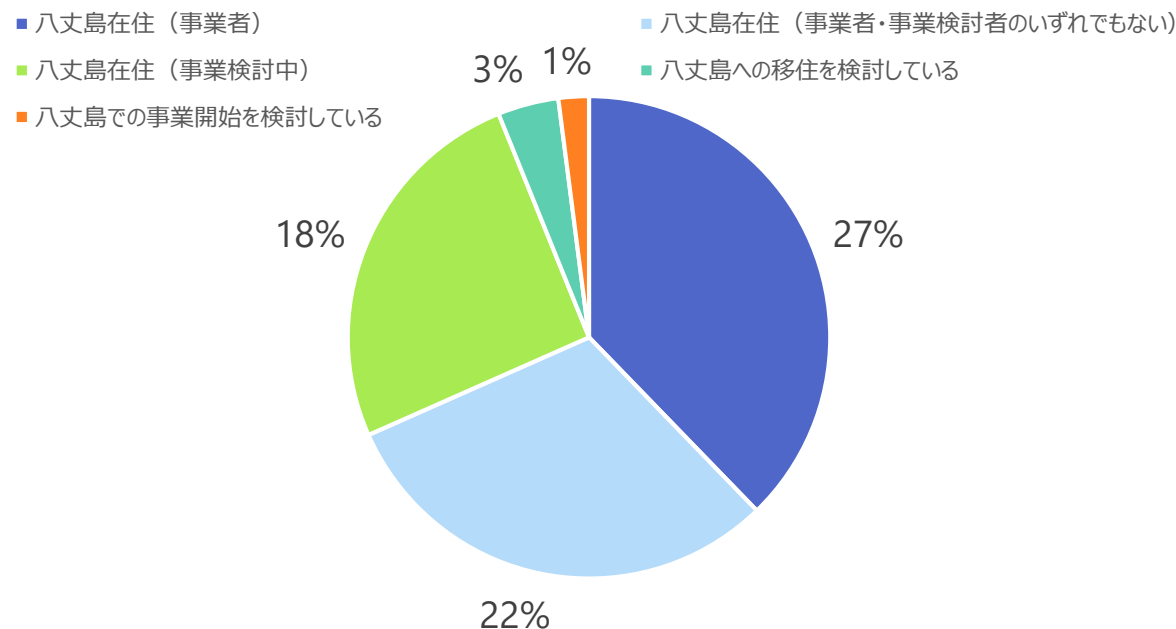


3 (2) 参加状況及び分析 – 講座

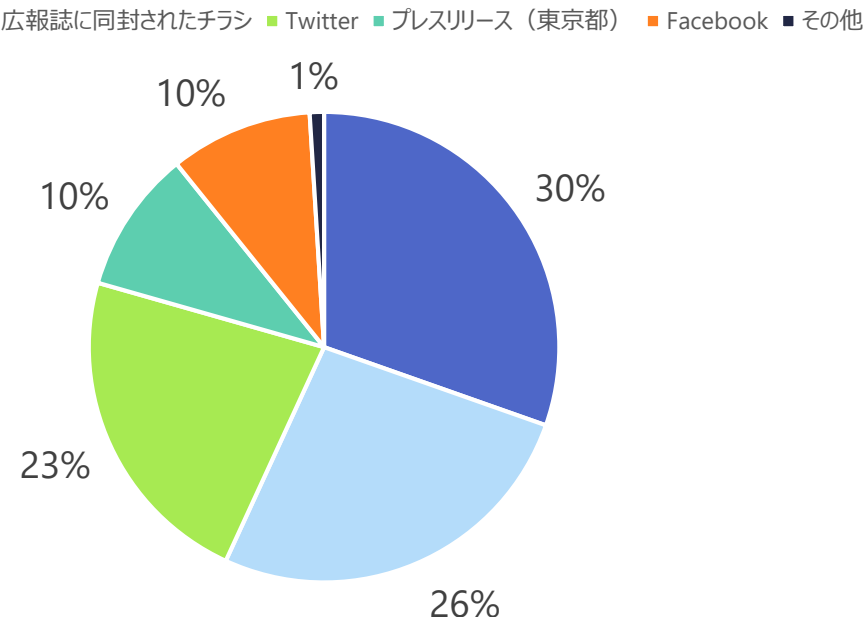
参加者の属性としては、**八丈島在住（事業者）が最も多かった**。講座を知ったきっかけは、「**知人からの情報**」が最も多く、「**広報誌に同封されたチラシ**」とほぼ同割合が「**Twitter**」と回答しており、**島内の口コミの強さ、Twitterの浸透率**がうかがえる。

後半参加者の中でも特徴的だったのは、**自身のスキルレベルが低いので講座に参加することを懸念していたが実際の参加者からの勧めで参加した**、という声が多く聞かれた。島民にとっては、デジタル活用講座というものに関心はあるが参加に対する心理的ハードルが高かったことが伺える。

参加者属性



講座を知ったきっかけ



3 (2) 参加状況及び分析 – 講座

講座への積極的な参加者は、**島民（事業者）**ですぐに実践を図りたいと考える方が多かった。また、事業者以外の方でも、**テレワークに関心が高い方や、体系的に学びたいという高い意欲を有している方**など、**潜在的にDX推進を担う人材は、一定数いることがわかった。**

【講座受講者属性別の意欲・課題意識】

	島民 (事業者)	島民 (事業検討中)	島民 (事業者以外)	移住検討者
意識意欲	<ul style="list-style-type: none"> • すぐに事業で実践したい。 • 事業に役立つのであれば積極的に吸収したい • 集客に直結する効果を求めている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 体系的に学んだ経験はないため、まず、何ができるか知りたい • テレワークへの関心は高い 	<ul style="list-style-type: none"> • ITでできることが広範囲過ぎて、何から着手すべきか自分なりに考えたい。 • 事業者と異なり、IT・DXのスキルが不足していても、大きな影響がないと感じられている方が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • テレワーク前提での移住を検討中 • 八丈島で何ができるのか、協力体制があるか等知りたい
課題意識	<ul style="list-style-type: none"> • 自身の事業をどう盛り上げていくか。 • 島の産業をどう盛り上げていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 事業化に向けての不安。 • 何から学んだらよいかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 困ったときに聞ける人が周りにいない 	<ul style="list-style-type: none"> • 移住によって、「常に新しいスキルを磨き続けられるか、活かせる機会が減少しないか」 • 参加できるコミュニティがあるか
スキルの現在地	<ul style="list-style-type: none"> • 小・中・高等学校における情報教育レベル（経産省モデル）からビジネスパーソンに必要とされるITリテラシーの基礎スキルレベル 	<ul style="list-style-type: none"> • スマホやPCの限定的な使い方のみ（経産省モデルの子供・高齢者・その他市民の層と同等） 	<ul style="list-style-type: none"> • スマホやPCの限定的な使い方のみ（経産省モデルの小・中・高等学校における情報教育レベル） 	<ul style="list-style-type: none"> • ワークーションやテレワークなどで働けるITリテラシーを身につけている

3 (2) 参加状況及び分析 – アンケート

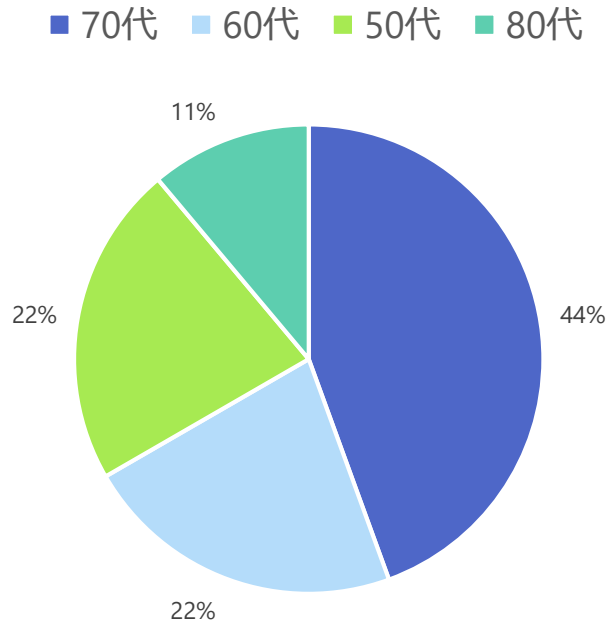
受講者からは学ぶことで島の生活が豊かになりそう、自身の事業にすぐに生かせそう、もっと学びたい、島の人にもっと知らせたいという声が多く聞かれた。ヘルプデスクについては、個別の課題解決ができ、よりデジタルを活用したいという前向きな声が多かった。

講座名	講座参加者の声	ヘルプデスク 参加者の声
⑤デジタルマーケティング 効果的なSNS プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漠然とアカウントだけ作って進んでいなかったSNSマーケについて基本的なところから確認できてよかった。 ・ 数字の分析とSNSの各得意分野がわかり大変参考になった。 ターゲット対象の年齢層から観察し明確さが増した。 ・ 具体的にハッシュタグをこうつけた方がいいなど教えていただきとても参考になりました。 ・ 具体的に自分のSNSを題材にして頂いてのアドバイスが貰えたので自分目線以外の発信をするヒントをもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知りたいことが的確に知れたので良かったと思います。(30代 学習塾運営) ・ わからない事がわかり、先へすすめる気持ちも楽になりました。このような機会をありがとうございました。(60代 民宿経営) ・ 毎年続けてください。(70代 喫茶店経営) ・ 料金がかかってもよいので、毎月でもお願いします。(70代 飲食店経営) ・ 大変よくわかりました。丁寧に教えていただき、ありがとうございました。まだまだ知りたいことが沢山あります。(80代) ・ スマートフォン宛に届いた身に覚えのない請求を支払わなくてよいことも教えていただき、安心しました。架空請求詐欺対にも役立ちました。(80代)
①本当に役立つ IT/DXを知るワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な内容でしたが、ビジネスの現場から離れて久しいので、再確認や知らない事のインプットになりました。 ・ これから発信していくための心構えしっかり見定めることが大切だとおもいました 	
⑧いつでもどこでもリモートで働けるスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事に取り入れられそうです。 ・ 新しい知識が身について大変満足です。活かしていきたいと思います。 ・ 働く定義から教えて頂き、非常に勉強になりました。 	
②課題解決のためのアイデアソン・ハッカソン	<ul style="list-style-type: none"> ・ モノの考え方、ロジックを学べた。 ・ 沢山のまなびがあったのですが、システム思考の時間軸の部分は自分に足りてない課題に気付かされました ・ システム思考について詳しく説明いただけたので、学習塾に携わる上で生徒にも伝えられていけたらと思いました。 	
④LINE を活用した接客プロセスの効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難しいところをわかりやすく教えていただき貴重な最初の一步になりました！ ・ 今後の活動に十分活かせる内容でした。 ・ 友達に情報配信しやすくなります。 	

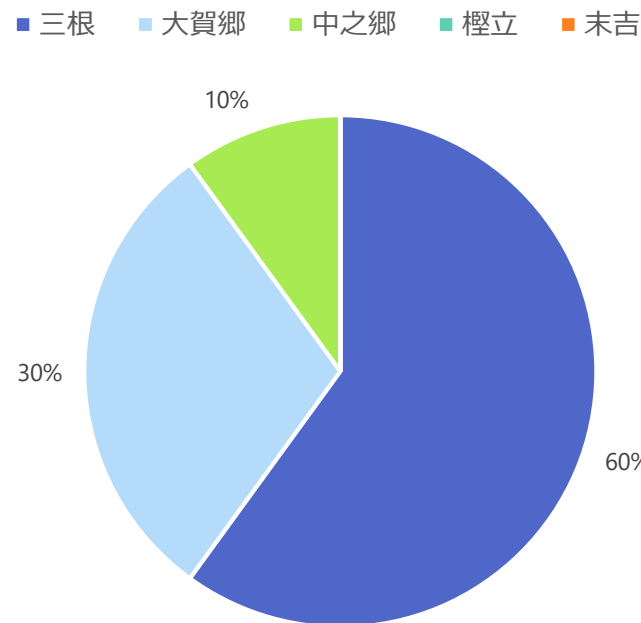
3 (2) 参加状況及び分析 – ITヘルプデスク

ITヘルプデスクの参加者は、**全体の約8割が60代以上**であった。講座参加者がより理解を深めるために実施する想定であったヘルプデスクだが、講座参加者以外でも気軽に参加できることを告知した影響もあってか、**高齢者の参加者が目立った**。ヘルプデスクを知ったきっかけは**広報誌が最も多かったことから、高齢者向けには広報誌が最も効果的であったことがわかる**。また、参加者は近隣周辺者が多く、70代以上の参加者は送迎で参加しているケースもあり、遠方参加者が少ない原因として交通手段が不便であることで参加を取りやめた可能性があると考えられる。

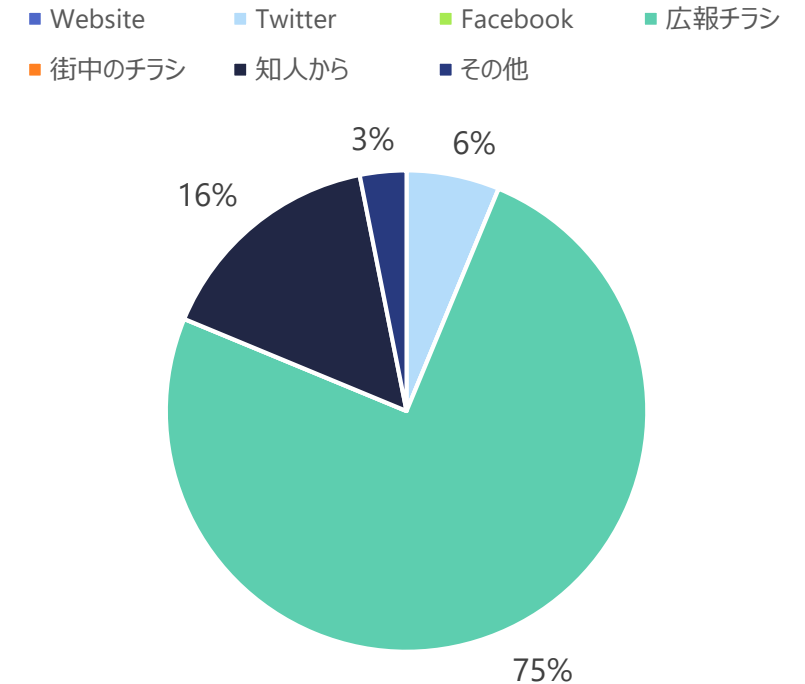
年代比率



島内居住地



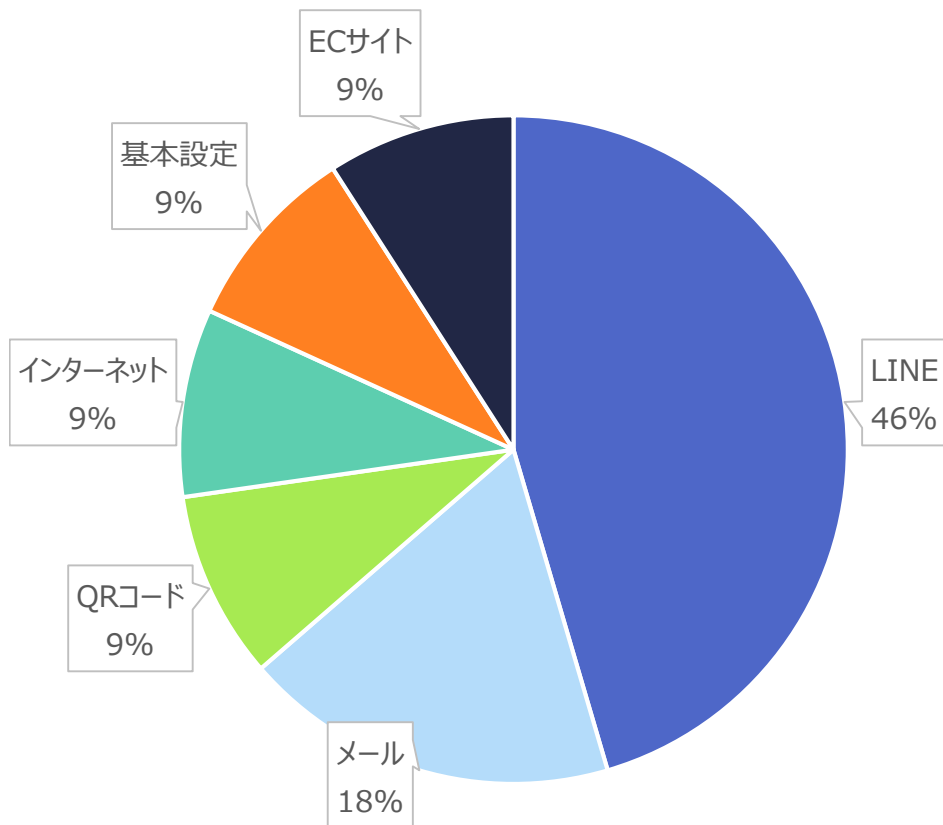
知ったきっかけ



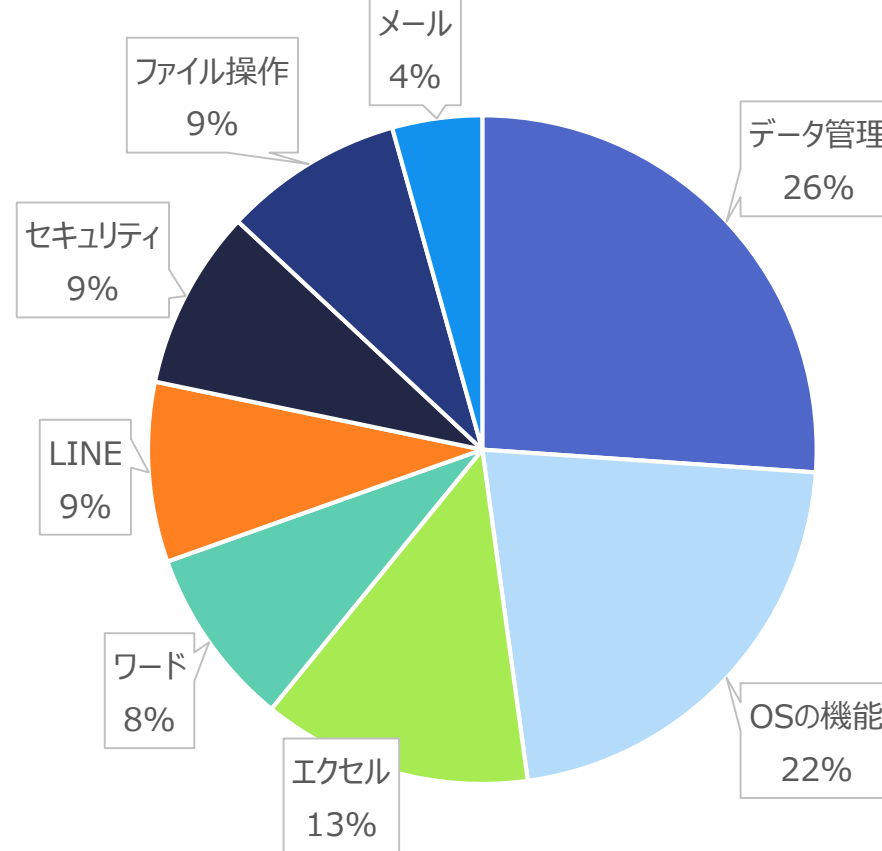
3 (2) 参加状況及び分析 – ITヘルプデスク

相談内容としては、スマートフォンが7割、PCが3割程度であった。スマートフォンでもPCでもどちらからも操作できるアプリケーションに関しては、普段から身近なスマホで操作を覚えたいという声があった。スマホでは圧倒的にLINEの操作方法が多く、コミュニケーションをとるツールとしてのLINEの定着度が伺えた。また、QRコードという言葉は知っていても、スマホでどのようにQRコードを読み取るのかがわからず情報が取得できないという相談が多く聞かれた。

スマートフォンに関する相談内容



PCに関する相談内容



3 (2) 参加状況及び分析 - イベント

島外ゲストを招いたトークイベントを3回、島内外の事業検討者向けにアクセラレーターツアーを1回実施した。

デジタル技術を活用して、八丈島で新たなサービスの創出やビジネスの問題解決をしよう

八丈島 DX推進人材育成プログラム 東京都

参加費 無料 デジタル活用で八丈島の暮らしをもっと楽に、もっと心地よく!

2022年12月20日(火) 18:30~20:00 (開場 18:00)

八丈島の皆さんが、デジタル技術に慣れ親しむことで、地域全体のサービスはますます便利になります。キャッシュレス決済やマイナンバーカード、アプリでのデリバリーサービスなど、身近な制度やしくみを活用するだけで、もっと楽に、もっと心地よく暮らすことができます。デジタル技術でどのように暮らしが便利になるのか、具体的な地域活性化事例をまじえてご紹介します。どなたでもお気軽にご参加ください。

ゲスト
一般社団法人 官民共創未来コンソーシアム 理事 賞浦 龍一 氏

プロフィール・経歴

- 前総務省大臣官房 サイバーセキュリティ・情報化審議官
- 公務部門ワークスタイル改革研究会 研究主幹 (一般財団法人 行政管理研究センター)
- 一般社団法人 日本ワーケーション協会 特別顧問
- 一般財団法人 地域活性化センター シニアフェロ

講演・登壇歴
福井県高浜町、愛媛県西予市、新潟県糸魚川市、北海道富良野市、秋田県湯沢市、岩手県釜石市、宮城県登米市、奈良県川上村、他多数

申込URL <https://lp.kan.co.jp/3EAU1RD>

会場：八丈町商工会研修室 定員 60名

八丈島におけるDX推進人材育成プログラム紹介サイト <https://www.kan.co.jp/publics/index/312/>



ワーケーションとWell-beingで地域の魅力を発信中! 全国各地で活躍している 島田 由香さん

身近な人を幸せにしたい! 民宿で新しいチャレンジを続ける Guest House SasooSou 女将 沖山 理沙さん

八丈島 DX推進人材育成プログラム スペシャルイベント 第2弾

デジタルのワクワクを話そう

八丈島 デジ活 トーク

SNSを使った情報発信や事業展開の秘訣とは?
Twitter, Instagram, Facebook, LINE公式アカウント...
身近なデジタルツールをどのように活用すればいいのかわからない...
全国各地で活躍する島外ゲストと島内ゲストがこれまでの実体験を交えて話します!

日時: 2023年2月25日 (土)
16:30~18:00 (開場16:00)

会場: 八丈島商工会議所 研修室

参加費無料 定員 50名

オンラインでも申し込めます

日本初オンライン農学校 主幹 好きなクワガタから生まれた「鳥」で「暮らし」と「食」を豊かに 島が誇る名産品「うみかぜ醤油」産地を賑がせる八丈島のアニマル 大沢 竜児さん

申込はWebサイトまたはQRコードからアクセス
<https://www.kan.co.jp/publics/index/320>

東京都 スマホのカメラで右のQRコードを読み込むとアクセスできます (QRコードは(株)カンコーポの登録商標です)



八丈島のみなさんの暮らしをデジタル技術の活用で もっと豊かに、もっと便利にしたいための東京都の事業です。

八丈島 DX推進人材育成プログラム

スペシャルイベント第2弾

全国各地で地域資源を活かした地域活性化を推進
森林セラピー導入・企業版ふるさと納税マッチング・
ワーケーション誘致・Well-beingな地域づくり等
地域活性化の第一線で活躍中の吉弘氏が来島!

八丈島の魅力とデジタル活用

日時: 2023年3月19日 (日)
会場: 八丈島商工会議所 研修室

参加費 無料 定員 60名

本イベントは、みなさんのご意見を伺いながら進める "タウンミーティング(対話集会)" 形式で開催します。
デジタルの知識がなくても、大歓迎!

八丈島の魅力、地域の大切な資源を活かしながら、
どんなふうにデジタルを活用していいのか、
これからの八丈島について一緒に話し合ってみませんか。

内閣官房 地域活性化伝道師 地域活性化の専門家
ゲスト 吉弘 拓生 氏

会場参加もオンラインもふるってご参加ください
<https://www.kan.co.jp/publics/index/317>

東京都 スマホのカメラで右のQRコードを読み込むとアクセスできます (QRコードは(株)カンコーポの登録商標です)



八丈島 DX推進人材育成プログラム 東京都

八丈島アクセラレータープログラム 2023

8joDX accelerator program 参加費 無料

3月10日(金) 11日(土) 12日(日) 応募締切 2/22(水) 17:00

八丈島でのビジネスプランを専門家と作り上げる 2泊3日 (交通費・宿泊費 主催者負担)

あなたの思いをカタチに!

八丈島でビジネスを始めたいと考えている
島民や島外在住者・移住検討者
ならだれでも参加できます

ご自身の参加はもちろん、お知り合いで事業・移住を検討している方がいれば積極的にご紹介ください

チェックリスト

- 1. 始めたい事業の概要
- 2. 移住したい地域
- 3. 移住したい理由
- 4. 移住後の生活のイメージ
- 5. 移住後の収入のイメージ
- 6. 移住後の生活費のイメージ
- 7. 移住後の住居のイメージ
- 8. 移住後の交通手段のイメージ
- 9. 移住後のコミュニティのイメージ
- 10. 移住後の生活のイメージ

メンター紹介

奥田 浩美 氏 マシナルアドバイザー

1991年に 株式会社 マシナル 創業。1999年に 株式会社 マシナル 創業。2000年に 株式会社 マシナル 創業。2001年に 株式会社 マシナル 創業。2002年に 株式会社 マシナル 創業。2003年に 株式会社 マシナル 創業。2004年に 株式会社 マシナル 創業。2005年に 株式会社 マシナル 創業。2006年に 株式会社 マシナル 創業。2007年に 株式会社 マシナル 創業。2008年に 株式会社 マシナル 創業。2009年に 株式会社 マシナル 創業。2010年に 株式会社 マシナル 創業。2011年に 株式会社 マシナル 創業。2012年に 株式会社 マシナル 創業。2013年に 株式会社 マシナル 創業。2014年に 株式会社 マシナル 創業。2015年に 株式会社 マシナル 創業。2016年に 株式会社 マシナル 創業。2017年に 株式会社 マシナル 創業。2018年に 株式会社 マシナル 創業。2019年に 株式会社 マシナル 創業。2020年に 株式会社 マシナル 創業。2021年に 株式会社 マシナル 創業。2022年に 株式会社 マシナル 創業。2023年に 株式会社 マシナル 創業。2024年に 株式会社 マシナル 創業。

申込・詳細



DX推進人材育成プログラム 主催者事務局 <https://www.scbank.jp/>
株式会社 環 (KAN) <https://www.kan.co.jp/>
お問い合わせ先 03-6892-3080 (KAN)

Twitter @8jodx

3 (2) 参加状況及び分析 – イベント 12月20日開催

平日の夜、悪天候の影響もあり、当日キャンセルも発生。参加意欲のさらなる向上と、参加のしやすさや周知プロモーションの強化などが課題として浮き彫りとなった。

イベント名	参加方法	参加者数
地域活性化セミナー デジタル活用で八丈島の暮らしをもっと 楽に、もっと心地よく！	現地	6
	オンライン	14

得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> 講座以外のイベント開催という1回目の取り組み デジタル活用の背景に対する島民への理解促進 ゲストによるFacebookでの八丈島
課題と改善ポイント	<p>運営</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントの認知、周知プロモーション不足。 会場への移動手段。 平日の夜の参加は少ない傾向。参加しやすい土日の実施のほうが良いのではないか。 12月の気温が下がった日、雨という状況で、当日キャンセルが増えたこと。 イベントタイトル、説明文の内容が難しそうだったという声が会場から聞かれた。自分事として捉えづらい部分をもっと平易な言葉、参加したくなる言葉に工夫する必要がある。 <p>設備</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工会研修室の会場のマイクが反響してしまい、オンラインの方に音が聞こえにくかった。

デジタル活用で 八丈島の暮らしをもっと楽に、もっと心地よく！

デジタル技術でどのように暮らしが便利になるのか
具体的な地域活性化事例をまじえてご紹介します！

ゲスト
一般社団法人 官民共創未来コンソーシアム 理事
箕浦 龍一 氏

プロフィール・経歴
・前総務省大臣官舎 サイバーセキュリティ・情報化推進官
・公務員キャリアアップ・スキルアップ研究会 研究主幹
・一般社団法人 日本ワーケーション協会 特別顧問
・一般社団法人 地域活性化センター シニアフェロー

2022年12月20日 (火) 18:30-20:00 無料：予約制
会場：八丈町商工会研修室 オンライン同時開催
〒100-1401 東京都八丈島八丈町大貫2551番地2



3 (2) 参加状況及び分析 – イベント 2月25日開催

島内で活躍している方をゲストに招いたことで、島民の参加が増加した。自分の知っている人が出演するので行こうという声が聞かれた。土曜の昼開催も参加しやすかった理由の一つとして挙げられる。

イベント名	参加方法	参加者数
スペシャルイベント第2弾 デジタルのワクワクを話そう 八丈島デジ活トーク	現地	19
	オンライン	17

得られた効果

- SNSで事業の情報を発信していく際に、デジタルだからと構える必要はなく、想いを果たしていくことの大切さ
- ゲストと参加者、ゲスト同士、参加者同士でより八丈島を活性化させていくためのイベントアイデアが生まれた
- 島民同士の繋がり、愛着を深める機会となった
- ゲストのSNSでの八丈島の魅力、イベント実施の拡散

課題と改善ポイント

運営

- 事前申込無し参加者を中心としたほうが参加者が増えるのではないか
- 登壇者が現地の参加者を中心に話しかけがちになるため、無意識にマイクを使用せず、オンライン側に声が届かない事象が発生

設備

- プロジェクターの接続ケーブルの故障
(2日前に動作確認した際は正常稼働)
- 商工会研修室の会場のマイク4本のうち、2本が途中で故障
- 通信障害の影響か、途中で途切れる事象が発生



ワークショップとWell-beingで地域の魅力を発信中！全道各地で活躍している島田 由香さん

身近な人を幸せにしたい！民営で新しいチャレンジを続けるGuest House Sospoim 女将 沖山 理沙さん

八丈島 DX推進人材育成プログラム
スペシャルイベント 第2弾

デジタルのワクワクを話そう！

八丈島デジ活トーク

SNSを使った情報発信や事業展開の秘訣

日時：2023年2月25日 (土)
16:30～18:00 (開場16:00)
参加費無料 定員 50名

会場：八丈町商工会 研修室

オンラインでも中継します

日本初オンライン履修校 全道「島」で「暮らし」と「高い」を豊かに
広島県の田方町で復興推進の再生に挑む 岸本 晋久さん

好きなクワガタから生まれた島が誇る名産品「うみかぜ糖菓」
輝煌を続ける八丈島のアニメキ 大沢 竜児さん



3 (2) 参加状況及び分析 – イベント 3月19日開催

発表者を講座、アクセラレーター参加者から2名決めておいたことで、このイベント自体を一緒に作り上げていくという意識と団結力が見られた。自身の意見、課題の発表の場を持つことでより活動が活発化する兆しとなった。

イベント名	参加方法	参加者数
スペシャルイベント第3弾 八丈島デジタル活用発表会	現地	7
	オンライン	2

得られた効果

- デジタル活用講座・アクセラレーターツアー参加者による学びのシェア
- プログラム未参加者の感想、要望
- デジタル活用の可能性に対する議論
- デジタル活用を島内で進めていくにあたっての今後の課題と展望
- 同じ意識を持った方々とどのようにコミュニティ活動を盛り上げていくかの意見交換と志気の高めあい

課題と改善ポイント

- プロモーション不足、見せ方の工夫：知識がない自分が参加してよい場なのかわからず迷っていた、という声が初めての参加者から出ていた。2月は知り合いが出るので行ってみようというモチベーションの方が多かったことも踏まえると、行政主催のイベントという見せ方よりも、島民が主体で実施しているイベントで、行政が支援しているという見せ方が有効である可能性が高い。
- 他イベントの重複：コミュニティ活動を盛り上げたいと考えているコアとなっているメンバーは他の活動（移住促進やイベント等）も精力的に行っているケースが多く、他イベントとの重複の影響も考えられる。

東京都 八丈島 DX推進人材育成プログラム
スペシャルイベント 第3弾

参加者大募集

島民のみんな
全員集合

八丈島 デジタル活用発表会

デジタル講座の学びを広げよう 便利で豊かな島の暮らしのために

ECサイト作成、LINE公式アカウントやTwitter投稿の工夫など
デジタル活用講座に参加した方が学びを踏まえて
実際にデジタルでできるようになったことを発表します。

全国で地域活性に活躍するゲスト 吉弘 拓生さんと島しよて活動中の
伊藤 奨さんをファシリテーターに迎えて、楽しく情報交換をしましょう!

2023年 3月19日 (日)
13:00~15:00 (開場12:30)

会場：八丈町商工会 研修室 **参加費 無料** 定員 50名
オンラインでも開催

お申込はWebから <https://www.kan.co.jp/publics/index/317>

ファシリテーター
伊藤 奨さん
一般社団法人 アウトランド代表理事
幼少から伊豆大島、小笠原大島、
八丈島で育ち、島の「ヒト」が
より島への愛と誇りを誇りキッカケと
なれるような場づくりを中心に活動中

ゲスト 吉弘 拓生さん
内閣官房 地域活性化推進課
元 史上最年少副町長
全国の地域資源を活かした
Well-beingな地域活性化を推進中

スマホのカメラで右のQRコードを
読み込むとアクセスできます
(QRコードは後編ダウンロードの登録情報です)



3 (2) 参加状況及び分析 – アセスメント

複数プログラム参加者における効果計測として、ITリテラシーアセスメントを行った。その結果、複数講座参加後の平均点の上昇が認められた。

ITリテラシーアセスメント

IT基礎講座（本当に役立つIT/DXを知るワークショップ）参加者を対象にITリテラシーを計測するITリテラシーアセスメントチェックを講座内で行った。

今回のITリテラシーアセスメントは、民間資格であるITパスポートな位置づけで、ITの基礎スキルを測定している（例、クラウド・AI・OS・セキュリティ・ハードウェアといった類の知識）

ベンダーに特化した部分（特定アプリケーション：SNS・LINE・ECサイト等）のスキルは、実装ができることがスキル取得となるため、ITリテラシーアセスメントの中に含めていない。

ITリテラシーアセスメント得点とプログラム参加回数との相関関係

実施タイミング	位置づけ	全体平均点
1回目の測定	初めて講座に参加された際に、講座受講開始前に受けたもの（スタート地点）	53.3
2回目の測定	2回目の受講の際に、講座開始前に受けたもの（1回の講座を受講済みの状態）	61.5
5回目の測定	5回目の受講の際に、講座開始前に受けたもの（4回の講座を受講済みの状態）	70

3回目、4回目の測定がないのは、ベンダーに特化したスキル取得の講座においては、アセスメントチェック対象から除外している。

ITリテラシーアセスメント設問例

6. 「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」の説明として最適なものを選択肢から1つ選んでください。* (5点)

- DXの目的は、少子高齢化社会に対応するために、AI技術やロボット等を使うことである
- DXの目的は、ITツールを利活用し、業務の効率化を図ることである
- DXの目的は、データやデジタル技術を使って、組織やビジネスモデル等を変革し、新たな価値を生み出すことである
- DXの目的は、アナログデータをデジタルデータに変えることである

7. 経済産業省デジタルスキル標準で定義されている、「DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進人材」の説明として最適なものを選択肢から1つ選んでください。* (5点)

8. 「AI」の説明として適切なものを選択肢からすべて選んでください。（複数選択）* (5点)

3（2）参加状況及び分析 – 受講者の成果

最も受講申し込みが多かったテレワークスキルの講座では、実際にクラウドグループウェア Microsoft 365 のTeamsを使ったWeb会議やOneNoteの共同編集や共有などを行い、**場所にとらわれずに働くために必要なデジタルツールの基礎**を学んだ。他の各種講座の中でも**講師とインタラクティブにやり取り**をしながら各自の課題に合わせたデジタルの活用方法を習得した。**受講者同士のつながり**を通して、各自の得意分野の教えあい、新商品のアイデアの出し合い、それぞれの施設への見学等の交流など、**島内にDXの芽**ができ、**コミュニティの輪**が広がりはじめている。

テレワークスキルの講座風景



講師と対話型で学びを深めていく



3 (2) 参加状況及び分析 – 受講者の成果

ECサイトの講座で得た知識を元に自社商品の販売サイトの構築やキャッチコピーの見直し、デジタルマーケティング講座で学んだTwitterでのハッシュタグのつけ方の工夫やLINE公式アカウントでのメニュー拡充や投稿内容の工夫等に取り組んだ。

講座中に参加者のアイデアも取り入れながら、リニューアルした通信販売サイト



SNS映えする写真の構図の工夫



Twitterでの発信の工夫



LINE公式アカウントのメニュー拡充



3 (2) 参加状況及び分析 – 受講者の成果

LINE公式アカウントを開設し、自身の商材に関心を持ったユーザー向けに情報配信できる仕組みをつくった。また、ITヘルプデスクでPowerPointを使った商品タグの作り方を学び、印刷、販売することができた。

LINE公式アカウントも講座中に作成



PowerPointで商品タグを作って印刷。ハンドメイドマルシェで販売



3 (2) 参加状況及び分析 – 受講者の成果

デジタルマーケティング講座でより効果的なSNS投稿のために自社のターゲットを考え、投稿を工夫する課題を1日目と2日目の開催の間に行った。Instagramの特性を理解し、ターゲットの関心を惹きやすい投稿をすることで新規顧客の発掘を目指す。

課題の事前提出とアドバイス

宿題 SNS投稿

どんな人にどんなメッセージを届けたいのか 具体的にイメージ	八丈島旅行に来る予定の20代~40代 女性	
サービスを伝えるのに最適なのは?	Instagram @rami8jo 写真、動画で紹介する。	
どんな影響を受けて、どんなアクションをして欲しいのか?	商品の画像をみて興味を持ってもらいたい来店、購入してもらいたい。	
SNSを見るのはどんな時か?いつ、どこで	昼休み 会社など 夜の自宅 寝る前の時間	


Copyright © KAN Corporation All Rights Reserved.

宿題 SNS投稿



Copyright © KAN Corporation All Rights Reserved.

Instagramの投稿とストーリーの時間帯、記事の性質などを踏まえた工夫




「いいね!」55件
rami8jo ラミのインスタでは今まで商品写真中心でしたがこれから八丈島の旅や暮らしの情報も載せていこうと思いますのでよろしくお祈りします🌟

~~~~~

冬の八丈島、都内ほどではありませんがほどほどに寒いので温かい場所が恋しくなります。

アの時期オススメなのが中之郷のきらめきの湯。



Copyright © KAN Corporation All Rights Reserved.

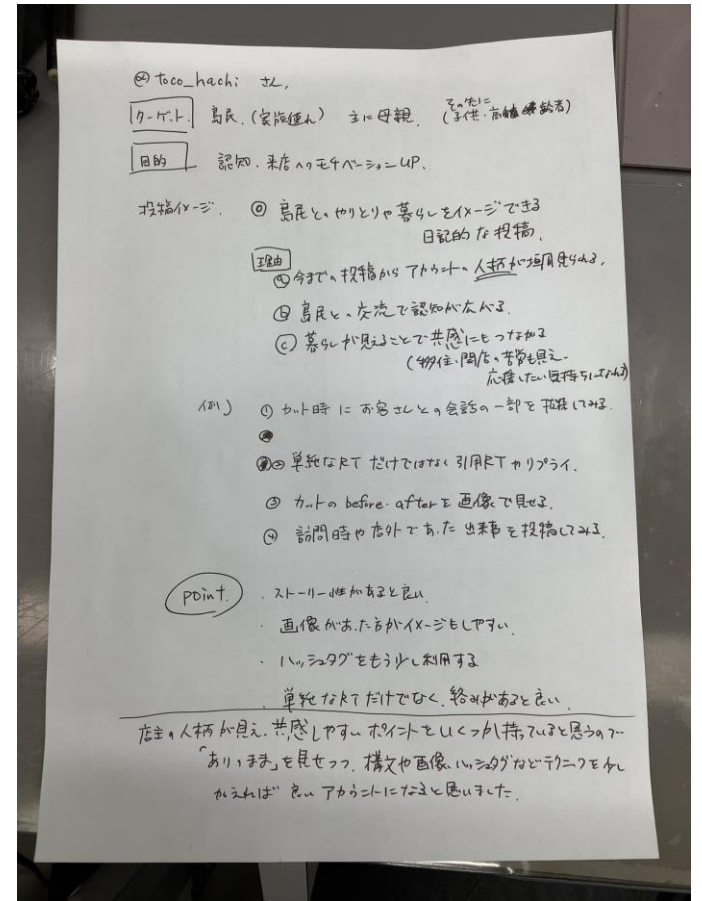
# 3 (2) 参加状況及び分析 – 受講者の成果

新規開業する事業者は、デジタルマーケティング講座とLINE公式アカウント講座に参加し、主に八丈島で影響力が大きいTwitterを活用した投稿の改善とLINE公式アカウントを用いたリピーター施策を行った。また、講座の他参加者が自発的にプロモーションのアイデアを考えてくるなど、受講者同士で双方を盛り上げていこうという動きも見られた。

Twitterの紹介文や投稿、ハッシュタグをわかりやすく改善



参加者内でプロモーションのアイデアを出し合い



## 4 想定される自走化モデル

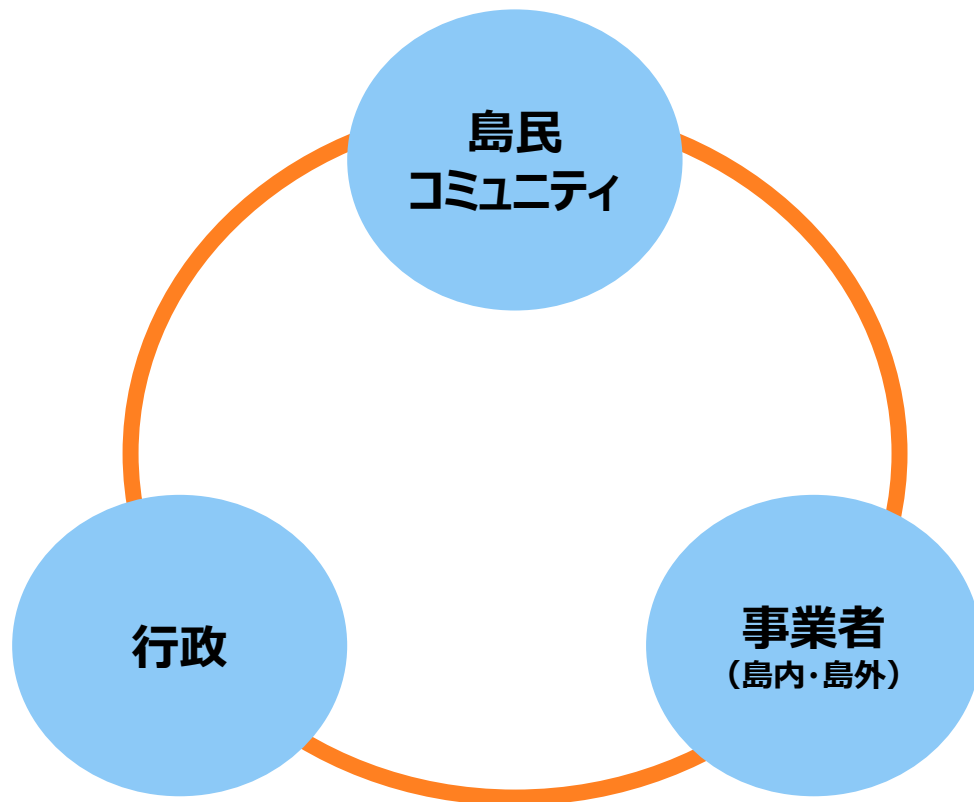
## 4 想定される自走化モデル –各モデルの比較検証

次年度以降、島内で取組を継続させていくためにはいくつかのコミュニティモデルが考えられるが、「継続性」、「実効性」の観点から、**それぞれの登場人物の持つメリット・強み部分を集結させていくことが成功のカギ**となる。

| 自走化<br>コミュニティモデル | 登場人物                                                                                                                          |                      |                                                                                                                       |                 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
|                  | 島民                                                                                                                            | 事業者（島内）              | 事業者（島外）                                                                                                               | 行政              |
|                  | ①<br>島民のみ                                                                                                                     | ②<br>島民 +<br>事業者（島内） | ③<br>島民 +<br>事業者（島外）                                                                                                  | ④<br>島民 +<br>行政 |
|                  | メリット                                                                                                                          |                      | デメリット                                                                                                                 |                 |
| 島民コミュニティ         | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題感、目的の共有による強い結びつき</li> <li>地域に根付いたネットワーク</li> <li>参加の心理的ハードルが低い</li> </ul>            |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>専門性高い知識の不足（個人依存）</li> <li>強制力がない、ボランティア活動になるため、活動のためのモチベーションの維持が難しい</li> </ul> |                 |
| 事業者（島内）          | <ul style="list-style-type: none"> <li>物理的に距離が近いことによる安心感</li> <li>地域事業の活性化</li> <li>雇用創出</li> </ul>                           |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>営利確保なしの存続が難しい</li> </ul>                                                       |                 |
| 事業者（島外）          | <ul style="list-style-type: none"> <li>外部コミュニティとの結びつきの創出</li> </ul>                                                           |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>営利確保なしの存続が難しい</li> <li>物理的に距離があることによる安心感の低下</li> </ul>                         |                 |
| 行政               | <ul style="list-style-type: none"> <li>町が住民の取組を把握し、他のDX施策に反映・活用できることでスマートアイランドの実現に寄与</li> <li>町との連携における島民が安心感が得られる</li> </ul> |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者に主体性を持たせづらい</li> <li>即応性のある施策が難しい（財政や人力的な制約）</li> </ul>                     |                 |

## 4 想定される自走化モデル - 島で推奨される自走化モデルの提案

今年度の取り組みを通して、講座参加者の中で交流が生まれ、コミュニティが出来つつある。双方で互いの事業アイデアを出し合ったり、助け合い、協力する姿勢が生まれている。そして、その島内事例を共有していくことが島内のDXに寄与する。一方、それだけでは新たな知識や技術の習得が困難であり、島民の自発性に過度に依存することは自然消滅の恐れもあるため、必要に応じて民間事業者等のサポートを受けることが望ましい。



| 自走化モデルにおける役割 |                                                                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 島民コミュニティ     | <ul style="list-style-type: none"><li>メンバー双方による情報提供、課題解決</li><li>結びつきの強化</li><li>主体性の育成</li></ul>                                               |
| 事業者 (島内)     | <ul style="list-style-type: none"><li>専門性高い知識の拡散</li><li>強い結びつきを活かした島内プロモーション</li></ul>                                                         |
| 事業者 (島外)     | <ul style="list-style-type: none"><li>専門性高い知識の提供 (島内事業者へ)</li><li>外部コミュニティの紹介、連携</li></ul>                                                      |
| 行政           | <ul style="list-style-type: none"><li>町の活動への積極的参加による顔が見える安心感の提供</li><li>住民の取組、現状の把握</li><li>島民モチベーション維持のための声掛け</li><li>他DX施策での連携、相乗効果</li></ul> |



## 4 想定される自走化モデル - 具体的な取組

今年度実施した講座やイベントの様子は動画としてYouTube にアーカイブ掲載し、島民が復習用、新規学習用として利用できるようにする。また、コミュニケーションをとるSNSとして、島内には既にTwitterを中心とした情報共有の土壌があるため、今年度の講座参加者を中心にTwitterサークルに招待を行っていく。

【SNSを用いたコミュニティ機能比較】

|         | Twitter サークル        | Twitter コミュニティ                                | Facebook グループページ           |
|---------|---------------------|-----------------------------------------------|----------------------------|
| 作成条件    | 特になし                | 作成してから半年以上<br>メールアドレス or 電話番号が登録済<br>2要素認証有効化 | 特になし                       |
| 作成個数    | 1つ                  | 1つ                                            | 制限なし                       |
| メンバーの人数 | 150人まで              | 制限なし                                          | 制限なし                       |
| 検索方法    | なし                  | 検索ボックスから                                      | グループ設定による                  |
| 参加方法    | 管理者からの招待            | 自分で参加 or 招待                                   | 自分で参加 or 招待<br>(グループ設定による) |
| 島民との親和性 | ○<br>講座参加者の傾向：アクティブ | ○<br>講座参加者の傾向：アクティブ                           | △<br>講座参加者の傾向：非アクティブ       |

## 4 想定される自走化モデル - 具体的な取組

Twitterサークルでは、主に以下の情報を発信していく想定でいる。事業者が投稿するもの、合わせてその後の自走化に向けて、今年度の傾向踏まえ、島民の興味・関心に沿った情報を掲載、やり取りの参考となる投稿を行っていく。また、コミュニティ（Twitterサークル）は講座参加者を中心に声掛けし、その後各参加者を通して、島民向けにコミュニティに参加してほしい人を招待制で募ることを想定している。

### 【コミュニティ（Twitterサークル）内でやり取りされる情報】

- 2022年度事業で実施した講座のトピック
- 2022年度事業で実施した講座の動画情報
- 2022年度事業で実施した講座のテキスト情報
- コミュニティサポーターによる最新IT情報の発信  
2022年度事業内で収集した島民の興味・関心データに基づく情報を掲載
  - リモートワークの動向記事
  - デジタルマーケティング（SNS）のTIPS
  - IT用語や新技術、トレンド情報
- コミュニティ内でのQ&A（質問に対する回答）

### 【Twitterサークルを用いたコミュニティ作成】

